

行雲流水

No. 4 8 令和3年5月31日発行

出会えた「ご縁^{えん}」は、大事にしたい

校長 寒河江 正人

「**論語**」の中に「**故旧は、大故^{たいこ}なければ、即ち棄^{すなわす}てず**」という言葉があります。

「以前から馴染みの人、ご縁のある人は、余程の理由でもない限り見捨ててはいけない。大切に下さいよ。」という意味の教えであります。

日本の総人口は、**およそ1億2,000万人**。

今、その多くの尊い生命が、「新型コロナウイルス感染症の脅威」にさらされています。私たちは、その大半の人たちと一度も出会わないまま、「人生を終えてしまう」のです。

そう考えると、**どういう形であれ、4月に私たちがこうして本校で出会ったということは、それだけで、お互いに何か「ご縁」があるということなのかもしれません。**

だから、私は、どんな人と出会っても、その出会いには「**必ず何か意味があるものだ。**」と肝に銘じています。

本校の教職員と生徒の関係にしてもそうです。

「**ご縁**」があって担任・担当となり、生徒は「**ご縁**」があってその担任・担当の下で学ぶ。だから、担任・担当は**細心の注意**を払って生徒を見守り、**成長の道筋**を示しつつ、**適切な指導・助言と支援**に努め、その生徒に合った「**学習権を保障**」しなければならないのです。

さて、**万縁の候。縁あふれる季節の到来**です。本日にて、5月は最終日。

5月生まれの渡邊智子先生、筒井絵理子先生、深瀬真紗美先生、

そして、5月生まれの生徒諸君、**お誕生日おめでと**うございました。

私たちは、皆さんと出会えてよかった。

「**日常の小さな出会いの一つひとつを大切にしてい**く」ことが人生にとって意味あること。

今、この瞬間に、こうして出会えた人たちとの「**ご縁**」を大切に育んでいくことこそが、「後々の自分の人生を豊かにしてくれるもの」だと信じております。

こうして出会っているこの時間は、二度と巡っては来ないたった一度きりのものなのです。だから、この一瞬を大切に思い、今できる最善のことをしましょう。「**一期一会**」です。